



秋冷号

編集・発行

東京都港区西麻布

4丁目9番2号

宗教学「神道大教」本局

神道の友編集部

TEL 03-3407-0524 番

## 『ストレスの正体』

管長 菊池 重敏



人間の精神は「心」と「意識」の二重構造でできている。本能や感情によって支配される「心」と、文字や観念によって支配される「意識」は別々な働きをする。『心が意識に抑え込まれている状態が「ストレス」である』

る。』と、教育者山崎房一は、著書『心が軽くなる本』の中で言っています。私達は大きな勘違いをしてきたかもしれません。それは、精神も心も同じもので、精神を強くするには心を強くしていかなければならない。性格を変えていくには心を変えていかなければならないと思っていたのです。心は本能と感情の燃えたぎっている人間の生きる原動力だったのです。心を変えようと思った所に無理が生じたのです。意識は理性です。心を抑え込んだり変えようとししないで、心と理性のバランスを

考えた方が良かったのです。我々の行動や言葉は、本能と理性がミックスされた上に成り立っていないければなりません。事の筋道を理解しない本能だけではダメ。人間らしい本能を除外した理性だけでもダメ。本能九割理性一割位の配分でバランスが取れるのではないかと思います。ストレスが強くなったという人は理性が強くて出過ぎている人です。もともと自分の本能や感情を奮い立たせ、裸の自分になりましょう。もともと自分の心を解放させてあげましょう。そうすれば心が晴ればれとして、ストレスなんて飛んでしまします。本能と感情は人間が生きてするための原動力です。極端な話、心の中でどんなに悪いと思われるような事を考え想像しても、行動と

言葉に悪い事が出てこなければ、その人は良い人なのです。心の中まで清く正しくありたいと思う人は聖者を志す人です。一般の人はなかなか聖者になりきれない事が多いのです。無理な事にとられ過ぎると、かえってストレスになつてしまします。我々の心の中には、良い心と悪い心があつて、悪い心が育たないように、良い心で一杯になるように心掛けてきました。そして、悪い心が強く出てしまつと「自分はダメなやつだ」とか「弱い人間だ」等と、自分自身で悪いレッテルを貼つてしまつて、落ち込んでいたのではないのでしょうか。これからは、考え方を少し変えてみましょう。心は人間として生きていく活力の燃えたぎっている大

明治 天皇 御製

世の中はたかきいやしきほどほどに  
身を盡すこそつとめなりけれ  
思ふことつらぬかずしてやまぬこそ  
大和をのこのころなりけれ

切な所だから、自分の個性として大切に伸ばしていこう。そして、意識は自分の行動と言葉をコントロールする所だから、心とのバランスを取っていこう。これをしちやダメ、あれもしちやダメと抑え込みばかりが強くなり過ぎると、生きる力や気力、活力がなくなつてしまひ、ストレスがたまつてしまひ。ストレスを感じたら、もつともつと自分の心を解放して、生きる力を高めるようにしよう。と思えば良いのです。良い思いも悪い思いもすべて受け止めて、あるがままの自分を最良と考え、心と意識のバランスを心掛ける生き方がストレスの溜まらない、心の病にかからない伸び伸びとした生き方になると思ひます。あるがままに自分に素直に生きれば良いのです。



**第二十一期第一回大会議・第四十四回総代会開催  
令和三年度の行事予定・予算等を審議**

昨年度の大会議及び総代会は新型コロナウイルス感染症が各地で蔓延増加している事から書面審議とした。

今年度の大会議・総代会に於いても、新型コロナウイルス感染症拡大が全国的に収まらない状況であったが、半数以上の御出席の御返事が有り、感染症対策を充分に行い、去る七月二十八日・二十九日の両日に亘り開会された。

二十八日午後一時より第四



総 代 集 合 写 真

十四回神道大教院総代会を本局弥栄殿広間にて、総代定数十五名の内三名の出席と委任状九名の提出に依って、総代会は出席規定が無く開会された。

**昨年度の大教院概況、収支決算報告**がされ、質疑なく承認された。審議事項では、内局より予算案の説明がされた。特に装束調製費予算について、冬用の祭典狩衣を新調したい旨の説明がされ、全体の予算について質疑なく承認された。

**令和三年度行事計画審議**の件では、例年と特に変わりが無いが、夏期研修会を今年度は通常通り七日間開催する事とし、感染状況を鑑み通学の方限定で宿泊無しとした。更に十一月二十六日は第四代管長の長谷信成大人命の百年祭に当たり、二十一日の月次祭に併せて斎行する予定が報告され、質疑なく承認された。その他では、橋村美樹師よ

り「授与所の光熱費は大教院の会計で処理されるのか」との質問に対し大熊部長より、税理士指導のもと、特別会計の利益に対する税務対策として、按分化しているとの回答がされた。

翌二十九日、午前十一時から第二十一期第一回の大会議が同所にて、大会議員定数十五名の内、出席者八名と委任状五名の提出に依って大会議が開催された。議長に松野昭男師、副議長に吉田善實師、議事録署名員に松野昭男師、堤龍一郎師、書記に局員の大熊部長が選出され、大会議の成立が議長より宣言された。

**御本殿にて大会議成立奉告祭**を執行された。管長挨拶、議長挨拶の後、報告並びに承認事項、議題が審議された。次第は以下の通り。

**(報告並びに承認事項)**

一、**責任役員指名承認の件**  
管長より第二十一期の責任役員の人事の承認を伺い、若森正道師、岡本忠宣師、

菊地元宏師、長元祥泰師の四名の責任役員就任について承認された。続いて内局・

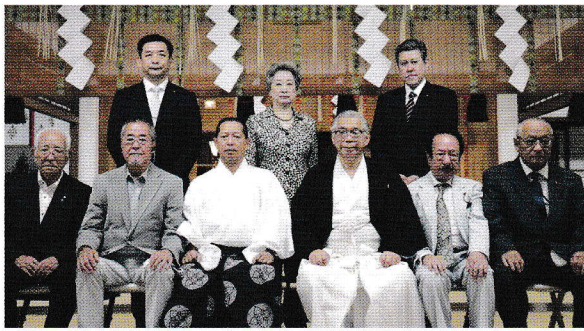
長元総監より参事会員、会計監査員人事についての承認を伺い、若森正道師、岡本忠宣師、菊地元宏師、長元祥泰師、井上象英師の五名が参事会員に、松野昭男師、冨田信太郎師、堤龍一郎師の三名が会計監査員の就任が承認された。

**二、令和二年度本局・大教院概況報告の件**

大熊部長より五月から翌年四月迄の概況報告がされ、各月の報告に続いて御神符の全国頒布、永代祭祀現況、教師の異動、各承認事項と統計資料が報告された。また、松野議長より行事報告の中にあった四本木稻荷神社についてどのような経過で直轄に至ったのか報告を求められた。この件に関して管長より四本木稻荷神社についての経緯が説明された。土地が大蔵省(現・財務省)所有であり、その上に宗教法人が現存している事、前任の教場長が高齢と

なり維持が困難として解散を含めて本局に相談があった為、責任役員会で協議をし、現在も地域の信仰もあるのに継続して神社発展の為に本局で預かり祭典を行っている状況である旨を報告された。井上議員よりお祀りを継続する事は賛成だが、経費のかかる事なので大会議にその事を協議し、管長の意向を大会議議員に伺った上で進めるべきであり、責任役員会だけで何事も決定事項が進むのは反対である事とこれからの先を見据えて神社運営のきちんとしたルール作りをして欲しいとの意見があった。冨田議員より、現在財務省の所有という事に対して、国の都合で返還を求められる事はあるのかとの質問に対し、現在の法律ではそのような事は無いと長元総監より回答がされた。松野議長より今後知恵を出し合い、責任役員だけでなく大会議議員にも諮って戴きたいと締め括られ、本局概況報告について承認された。





大会議員集合

### 三、令和二年度大教院決算並びに令和三年度予算承認の件

前日の総代会にて承認可決された決算及び予算の歳入・歳出各項目を報告し、決算では各祭典の参拝者減少による幣帛料の減収と雑収入の増加の説明、歳出では授与所新設による備品購入、倒木危険回避の為の臨時樹木伐採や記念事業工事の費用など説明し承認された。

また、令和三年度予算について前年度決算を踏まえての予算額を説明し、承認された。

### 四、令和二年度神道大教本局決算並びに特別会計決算報告承認の件

歳入では全体的に減収、退職金増加については永澤局員退職に伴う退職金支払いの為、毎年の積立金から繰り入れた額である事。報酬については管長の報酬総額から交通費を分離して減額になっており、分離した交通費が旅費交通費に加わり増額している。また給与項目に関して、職員二名が給与、他助勤者は帳簿上雑給としているが、税務申告上給与扱いになる為、合算で記載している事を説明する。次に特別会計についても各項目毎に報告した。

**五、会計監査報告承認の件**

岡本会計監査員より報告がされ、全会一致で承認された。

#### (議題)

一、令和三年度神道大教本局予算(案)並びに特別会計予算(案)審議の件

井上議員より大教院・本局の旅費交通費の内訳、大会議費、責任役員会議費、顧

問料の内訳についての質疑があった。

内局より、大教院の旅費交通費について毎月祭員として来て戴いている一年間の交通費、本局については先に決算書で触れた管長の役員報酬から交通費を差し引いた分が上乘せになった。

総監職、事務助勤者の交通費に関しても税理士との相談で非課税範囲の分を算出して加えた。その分給与等報酬関係が少なく計上されている。顧問料については顧問弁護士、顧問税理士と契約している。特別会計の収益が上がつっている分税金がかかるので比重を置いて



管長挨拶



辞令授与

計上しており、本局・特別会計の顧問料の内訳を税理士の指示に従っている。大會議は昨年度文書會議であったが例年通りの計上とし、責任役員會議費について、昨年度は少なかったが通常年四〜五回開催している。遠方からの経費を計算し予算を計上した事を説明し、予算は可決された。

**二、令和三年度神道大教院事計画の件**

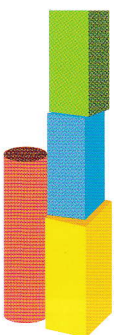
五月から七月現時点では既に経過している行事報告、十一月には第四代長谷管長百年祭の斎行を報告し、計画案は承認された。

### 三、その他

(1) 教令第五十三号について、令和四年五月一日より施行としたい。一昨年に改訂し令和四年は現状通りで承認された。

(2) 内局・長元総監より、令和六年に本教創立百五十年記念大祭に際し、過去の大祭記録では四月、十月どちらにも斎行した年があり、決まりが無い。来年の大會議では百五十年記念大祭の実行委員会を組織したい。管長との話で四月はお正月終わって直ぐの準備が大変だろうとの事で、出来れば十月に記念大祭を斎行したい意向である。実行委員会を立ち上げて、様々な行事内容を協議したくお願いした。

以上、報告・協議事項の審議を経て大會議を閉会、大會議終了奉告を行った。





# 令和三年度 夏季研修会

令和三年度神道学院夏季研修会を八月二十五日から二十八日まで四日間、本局を会場に開催した。

昨年に続き、コロナウィルス感染防止の為、期間を短縮し、通いで現任者のみを対象として開催した。

受講者は五人だったが、各人熱意を持って参加された。菊池管長・長元禮典長・堤・大熊両典禮の四人の講師によって五人の受講生を教えると言う、大変濃厚な研修会となった。

コロナ感染対策を充分に行う中、朝八時に受講生全員



集合写真

で朝拝と国旗掲揚を行い、午前九時より九十分間の講義を二講座、午後からは祭式作法が四時間教授され、午後五時より夕拝、国旗降納、掃除を行い、午後六時三十分一日の研修を終了。大変過密な日程ではあったが、受講生は個人教授を受けているような状態で、真剣に研修を受けていた。

## 参加受講者の感想文

### 宮内 康

私のような、不器用で覚えの悪い未熟者には本当に丁寧で厳しく教えて戴き、貴重な経験と学びでした。今回の研修会で純粋に思った事は、教わった事が出来ることと純粋に嬉しい気持ちになりました。そして嬉しい気持ちになると更に気持ちがいってきました。しかしなかなか出来ないと感じ、この二つの純粋な思いと共に研修会がありました。自分自身でも純粋に向き合っている事を感じる事が出来

ました。結果、出来ない、これから努力するしかない、更に向き合うしかない、目標を持ち、覚悟を持って向き合う大切さを、講師の先生方から身を持って教わりました。これからは不器用で覚えも悪い私ですが、大きな返事を忘れる事なく、また、感謝の心と言葉を忘れる事なく、講師の先生方の言葉、神様からの教えを守り、さらなる精進を致します。

本当に貴重な四日間の研修会、心から感謝致します。

### 宮田 楽

今年は、私を含め受講生五名と、例年よりも少ない人数な分、内容の濃い研修になったと思います。

私は、山形県の三山宮宮司の息子で、将来は父から受け継いで行こうと考えています。それをお知りにな

った菊池管長先生からの推薦を戴き、今年の四月から神道大教に住み込みで國學院大學に通わせて戴いてい

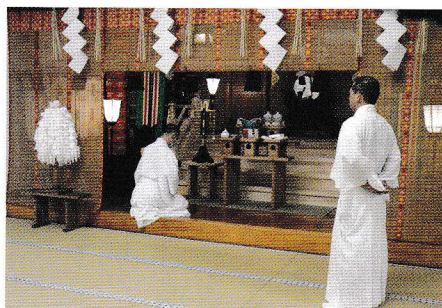
ます。

それから数カ月間、管長先生をはじめ、たくさんの方の祭式を見せて戴きました。今回の研修会でその祭式の辛さを実感しました。同じ事で注意される事が多く、癖をつける事が大事だと思いました。研修会中は厳しい事もあれば楽しい事もありました。特に献饌の時の跪居で膝と脚がとても辛く、今でも痛いですが、その他にも動きの全てに作法があり見ているだけでは分からないような複雑さでした。総合祭式では、奉告祭を自分たちで行う練習をしました。基本で教わった事はできている前提と言われましたが、それでも注意される事もあり、作法も間違えられないですし、ほかの祭員との息もなかなか合わなかったのが難しかったです。

しかし、今回の研修でそれを実感した事は嬉しく思います。自分の歳で祭員になる事は貴重な経験だと思います。



堤氏 講義

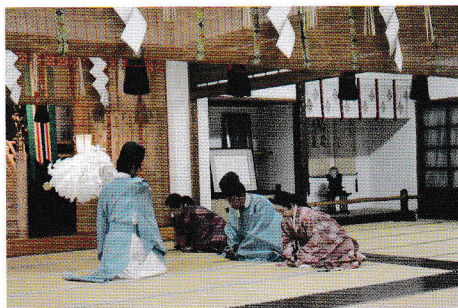


行事作法



国旗掲揚





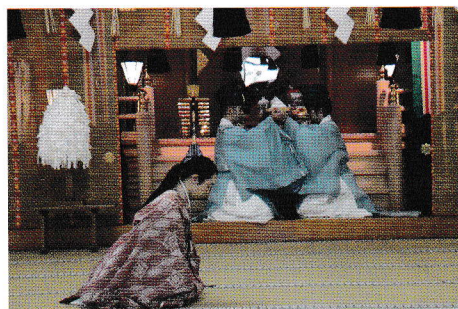
報告式 (大麻行事)

ます。私は若輩者なので、今回のような事を積み重ね、これからの自分に活かしていけるようにしたいです。

**永井 栄子**

先の見えない今、日本中が悲鳴を上げている時、神道大教の管長、総監そして先生方は、平然として研修会を開いて下さいました。尊敬の念を込めて感謝申し上げます。

私も、外出に不安はありましたが、自分なりに気を付けて、それでもコロナになったら、それも何かの意味があるのだと思い、気合を入れて参りました。



報告式 (献撰の儀)

今まで何度もお教え戴いた事なのに、なぜ出来ないのかと、自分で自分が情けなくなってしまうばかりの四日間でしたが、半歩ぐらいいは進めたのかなと勝手に思っています。

**永山 和洋**

神道大教は、毎年の教師を育成する事を中断しないで、研修会が開かれた事は、管長先生を始め、諸先生方の御尽力に感謝の念を禁じえません。誠に有難うございます。

## 受講生答辞

現状の世界では世の中のコロナ禍から脱却しなければならぬと言う課題があります。我々も神職の一人として、これらの諸問題に悩む人々を教え導く事ができるように、日々の研鑽に励みたいと思います。コロナ禍で研修に出席できなかった方もたくさんいると思います。来年コロナが静まり研修会が通常通り開催される事を希望します。

本日ここに令和三年度神道大教神道学院夏期研修会の閉講式の終了を迎えるに当り一言御礼申し上げます。

今度の研修会には、コロナ禍の東京都内から五名の方がこの西麻布の地に集まり、それぞれが神道の研鑽をするために研修に励む事ができました。東京オリンピック、パラリンピック開催中にもかかわらず、更にコロナ禍においても従来通り、神道大教の教師を育成する

事を閉ざさず続けられています。この事は管長先生を始め先生方、お手伝いを戴いている先生方の御協力を戴き、皆様に感謝の念を禁じえませんでした。

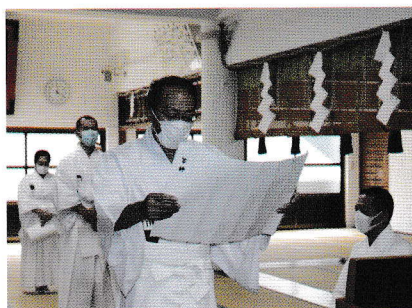
本年は菊池管長、長元禮典長が就任して五年目を迎えられる、講師陣の内容も深く、洗練された講義に我々受講生一同多くの内容を学ぶ事ができました。世の中コロナ禍の脱却をしなければならぬと言う大問題も控えております。我々も神職の一人として、これらの諸問題に悩み苦しむ人々を教え導く事ができる様、日々研鑽に励みたいと思います。

最後になりましたが、神道大教の益々の御発展と御教示戴きました先生方の御健勝をお祈り申し上げ答辞とさせていただきます。

令和三年八月二十八日  
受講生代表 永山和洋



装束着装で集合写真



答 辞



祭 式 作 法





『子曰わく、  
学びて時に之を習う。  
亦説ばしからずや。』

学而ですから先ずは学ぶ事が大事です。

学ぶって何だろうと言う事です。

学ぶという字は、ウ冠に点の字はウ冠で屋敷を表す字です。ウ冠に子が入っていると言うのは、何も分らない人、無私無欲、穢れの無い人、無色透明な人、雑念の無い人、そう言う人になんか知識を与えていく。知識は経験する事に依って知恵になる。知恵が重なる違う字と成って「智恵」と成る。

学ぶという行為、知識を得るための行為、それが学ぶ事。人間という事を自覚し始めて、先ずは親から学ぶという事。身近に居る母親から、習慣的なもの、善悪を含めて教わる。

教えるという字の中にも子供の字は入ります。習うという事は学習です。学ぶと習うはセットに成っている。「学びて時に習う」とは学習なんです。ですから、学んだら習わなければならぬのです。

習うってどういう事と言うと、繰り返すという事、繰り返す事が基本に有ります。つまり、何度も繰り返し繰り返して、出来るように成るまでが学習です。それが学びで、これを習うと言う事です。

学んで出来た事、お稽古をして先生から言われた事が上手に出来た。それで初めて「喜ばしからずや」なんです。

この喜ばしからずやを繰り返してやる事、完成では無くても出来るように成る、到達する。

一つの完成で、自分自身も喜び、周りの人も良かったねと喜んでくれることが、「説」と言う字なんです。

説明の説。説は会意文字で二つの「言」と「兌」の文字を組合わせて説となります。言葉によって言い表し、言葉で説明して、相手に意思

を伝える。相手に伝える事が出来るように成った事を喜んでいい。その為の「説」なんです。何で「喜ぶ」では無いのか、何で「悦ぶ」字では無いのか。喜ぶという字は沢山有るけれど、孔子の言う「説ぶ」の字には意味が有ると思います。



『子曰わく、富にして求むべくんば、執鞭の士と雖も、吾亦之を為さん。』

如し求むべからずんば、吾が好む所に従わん。子の慎む所は、齋・戦・疾。』

私はどうしても富を求めなければならぬなら、露払いのような鞭（むち）を振るう賤（いや）しい仕事にも喜んでしよう。だが求めなくて良いなら、例えば貧乏をしても自分の好きな事をやりたい。

孔子は学びのあり方を沢山教えてくれますが、意外に孔子のプライベートな一面も見えて来ます。孔子の人物像を掘り下げて見ると、孔子はそもそも労働が好きでなかったようです。

洞察力は優れています。見抜いていくと言う事は、人を動かすのにとっても重要な事なので、人的配置、適材適所が孔子はとても上手で、年功序列で決めるのでは無く、人を見るところか、人を読むところか、行動学をしつかり学んでいます。頭はすぐ良く、作戦を練るのは得意です。

この文章の前に、子路は孔子に、大将に成ったならば誰を副将にしますかと聞き、孔子は、子路のようにむやみやたらと勇ましい者は駄目だ、緻密（ちみつ）な計算の元に戦争を勝ち取れる人間が良い、と言っています。孔子は行列の露払いなどするはずが無い。何故ならば、孔子は富を求めようとしなない人だからです。

子路とのこのやり取りが不思議だなと思いつつ、孔子の一面が見えて来ます。そして、子の慎む所は、齋・

戦・疾です。

慎む所にして最つとも慎んだ所が「齋」。しかし齋って何でしょうか？。自分自身を精進潔斎して、神様を祀る。卑しい我が身を綺麗にして畏敬の神に礼を尽くす事です。神職は、お祭事が有れば常に白い祭服を着ます。白絹の袍を着ると言う事は、潔斎と同じです。穢れ無い事とは、慎む事。戦と言う事は、必ずしも戦争の事では無く、口論も当時は戦です。そして病氣（疾）に成らないようにする。神を祀る事を孔子はあらゆる所で伝えて来ます。天を祀れと教育して来ましたが、自分の潔斎を心掛けていた人なので、孔子の下着は常に白い物を心掛けていたようです。



論語指導師

大教正 井上 象英



# 令和三年 秋分霊祭斎行

九月二十一日神道大教院長月の月次祭を斎行しました。当日は、好天に恵まれ、汗ばむ気候の中、コロナウイルス感染予防を充分に講じられた、拾数名の御参拝者の元、管長斎主及び六名の祭員によって本殿祭並びに秋分霊祭が御霊殿にて厳かに執り行われました。

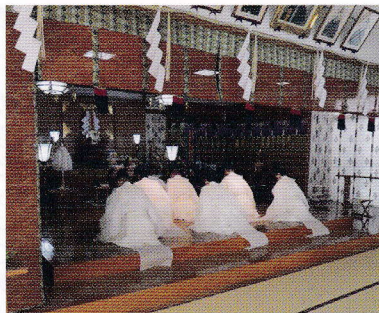
和典儀の秋分霊祭開始の挨拶の後、斎主一拝、献饌の儀と全国の教師・信徒より供えられた供え物やお花が御霊の心を和ませ、斎主祭詞奏上では、長月の祥月命日の御霊のお名前を一人ずつ奏上し、御霊殿に御祭祀の御霊の安寧をお祈りしました。

続いて、橋村師による慰霊の舞が奉奏され、雅楽の調と共に美しく舞う姿に御霊もお喜びになられた事と思えます。続いて東京婦人会有志の先生方の先導によって神教歌が祭員・参拝者が

心一つに声を合わせ御霊様に真心が届くよう力強く奉唱致しました。

続いて、斎主及び祥月命日を迎える御家族と御参拝者が玉串を奉りて御拝礼され、御霊の御慰霊をお祈り致しました。

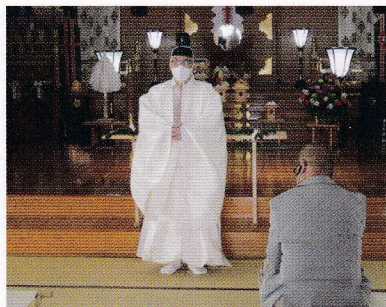
その後、撤饌の儀、斎主一拝と続き、管長挨拶では、「愛情は、お金や物だけで満足させるのでは無く、相手がどのような感情を持っているのか、その感情を満足させるように愛情を注がなければならぬ」とのお話をされました。今回もコロナウイルス感染防止の為、直会では中止と致しまして撤下のお土産をお持ち帰りいただき、滞りなく祭典は終了しました。



斎主一拝



祭員集合写真



管長挨拶



管長祭詞奏上



御祈念をされる管長

株式会社「丸昌」

豊洲市場 大祭斎行

（株）丸昌は、先代創業者小川昌男氏が昭和三十七年に水産物卸業「丸昌」として個人事業を営み、次々と事業を拡め、昭和四十八年に「（株）丸昌」に組織変更し、昭和五十三年に東京都中央卸売市場築地に加工場及び冷蔵倉庫、営業所を設置し、事業発展に励んだ。

平成二十五年に現在の社長小川浩司氏が事業を引き継ぎ、更なる事業発展へと励む中、東京都の計画によって豊洲市場への移転が決まり、（株）丸昌も従来よりも二倍に社屋を拡大し移転した。



管長と小川氏御家族



鳴動神事

それ以降、移転日の十月三日を大祭日と定め、祭儀を斎行している。

今年も菊池管長斎主の元、大熊部長が祭員となつて厳肅に祭典を行い、鳴動神事によって、社屋の隅々まで祓われた。



## 次世代委員会開催

この度、昨年度の大会議において承認された「次世代委員会」が七月二十八日(水)午後五時より弥栄殿広間に開催されました。

第一回目の会合には、菊池管長・長元総監(次世代委員会委員長)を始め、コロナ禍の影響もあり、首都圏だけの次世代委員七名の出席だったが、今後の課題や活動計画、「次世代委員会」の在り方等について意見交換がなされました。

この委員会は、長元総監より御発案戴き、若手教師の育成並びに活躍の場を広げ、相互の親睦を深め神道大教の発展に寄与する事を目的として発足致しました。

平成八年に設立された「青年会」は、十八年余り様々な活動を行っていましたが、数年前より休止状態となつて現在に至っています。

私たちの先輩方が築き上げて来た思いが、代々受け継がれその歴史が有ったからこそ今がある事を改めて認

識し、敬意をもって歩みたいと思つています。

将来的には「青年会」再活動につなげ令和六年に迎える「本教創立百五十年」に向けて新しい歴史を築いていきたいと思ひます。初年度は、試行錯誤の連続で滞りなく運営出来るかどうか分かりませんが、皆様には温かい寄り添いの心で見守つて戴き、次世代を担う若手教師と共に意見を述べ、一方通行ではなく一緒に考えて戴きたいと思ひます。是非とも御協力下さいますよう心よりお願い申し上げます。

心のつながり拠り所となれるよう、「おもいやり」また「寄り添う気持ち」を忘れずに一緒に新しい一歩を踏み出して行きたいと思ひます。

(堤)

【出席者・敬称略】

菊池重敏管長  
長元祥泰総監

(次世代委員会委員長)

「次世代委員」

堤龍一郎・大熊満・橋村美樹・

金田英仙郎・宮内康・林日奈

子・宮田楽

## 「伊豆修善寺あさば」 邸内社秋季大祭斎行

浅羽家の邸内社改修工事を施工し、平成三十年九月十九日に遷座祭を斎行した。遷座の日を記念して、毎年九月十九日を大祭日とし遷座祭以来、菊池管長が斎主を務め、祭儀を厳粛に行っている。

今年の大祭も晴天に恵まれ、汗ばむ中、菊池管長斎主、大熊部長が祭員として、祭典を斎行した。現在の当主浅羽一秀氏で十代、三百五十年以上に亘り、「修善寺あさば」旅館を受け継いでい



大熊部長、開祭の言葉



献饌の儀

る。修善寺は千二百年前に弘法大師が創建された寺院「桂谷山寺」に由来し、鎌倉時代の初めに修善寺と名称が定められ、此の地も修善寺と呼ばれるようになった。弘法大師が開いた「独鈷乃湯(どっこゆ)」が修善寺温泉の発祥の湯となつて、伊豆最古の温泉と言われる由縁である。



左から、大熊部長・管長・井上象英先生・浅羽一秀氏



当主 浅羽一秀氏の玉串奉奠

郎幸忠がこの地を訪れ、堂守の傍ら門前に開いた宿坊に始まり、その後浅羽安右衛門が温泉宿を興して以来現在に至っている。



# 神道大教院御霊殿にて 御霊御奉斎の御案内

神道大教院の御霊殿には、初代総裁一品有栖川宮職仁親王の御霊を始め、第十一代までの歴代管長公・大会議員・役員・総代・教場長教師・神徒・信者・御家族などの御霊を現在二百五十五体奉斎し、御祭祀致しております。

春秋の大祭・春分、中元、秋分の慰霊祭又、月々の月次祭での霊殿祭、月首祭。中旬祭の御霊祭り。

朝拝では、その日の月命日並びに本命日祭に当る御霊の御霊聖名を奏上し、慰霊のお祭など、折々の御霊祭を厳肅に斎行致しています。神道大教の教場長を始め教師・信者の御霊を各教場や御家庭にて懇ろに御祭祀されている事と思いますが、更に神道大教院の本部御霊殿にて、総裁の宮と共に、

神道大教の傘下にて御活躍され、亡くなられた御霊の御功績を称え、末永く安らぎを御祭祀する、神道大教院の永代祭祀のお薦めを左記の通り御案内致します。

## 記

一、永代祭祀料

御一体の御霊聖

金 壹拾萬円也

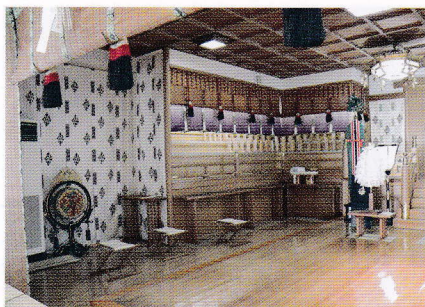
・御家族分十三体を納められる合同御霊聖

金 参拾萬円也

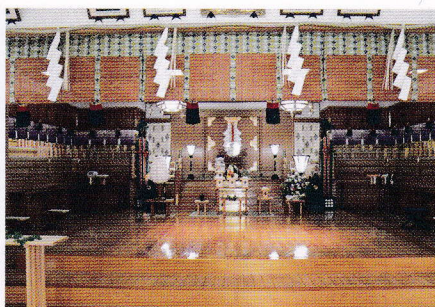
二、永代祭祀受領証を発行致します

三、お申し込みは、本局まで御連絡戴きましたら、申込書類をお送り致します。

尚、神道への改宗を御希望の方は、本局へ御相談下さい。



向って左側の御霊舎



御 霊 殿 正 面



向って右側の御霊舎



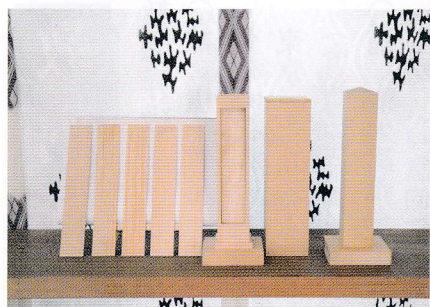
斎主祭詞奏上



慰霊の巫女舞



斎主祭詞奏上



御霊聖 (左が合同用・右が1体用)



斎主祭詞奏上



神教歌奉唱



# 四本木稻荷神社 社名碑奉納される

東京都北区滝野川に鎮座する四本木稻荷神社は、現在の地に遷座してより、神道大教の教師である梶田穠園師から三代に亘って、地域の人々と共に御神霊をお祀りされて来ました。諸般の事情により現在神道大教本局直轄の教場として代表役員を兼務されて再活動となり今年で二年目となります。当初は近所の方が手入れ等のお世話をされつつも、広い境内地の草木は深い森を彷彿させる程に鬱蒼と生い茂り、参道は枯葉や土の堆積が進み、日中でも薄暗く感じる所ではありましたが「よもとき稲荷を守る会」を始め、近隣の皆様の力強い御支援により境内整備がされ、今は風の通りも心地良く、清々しいお参りが出来るようになりました。月次

祭、春秋の大祭を斎行し、祭典時に於いては参列される方も少なからずと賑わい、神社としての活動を徐々に進めております。又、この度(有)富士光代表取締役小泉輝人氏より、社名碑が奉納により拝殿左前に建立され、去る九月十三日に清祓いをし、月次祭において御神前に御奉告申し上げました。御奉納戴きました小泉氏に重ねて御礼申し上げます。

【当時の奉納品から】  
当神社は、戦時中に奉納された狛犬、灯籠、忠魂碑として使われている庄磨機圧輪(火薬製造に使用)、鉄製の天水桶等、当時の名残を遺っている珍しい神社でもあります。鉄が不足した時期に没収されずに据え置かれた事を考えますと、如何に四本木稻荷神社が戦時中も大切にされて来たかが窺えます。又、大山倍達氏の名前にて奉納された御祭礼旗一対がひと月前に発見されました。

国際空手道連盟 極真会館の創始者として有名な御仁であり、どのような縁で当神社に奉納されたかは不明ですが、今後も大切に保管させていただきます。

【大山倍達氏について】  
国際空手道連盟極真会館創始者。一九四七年九月に戦後初めて開催された全日本空手道選手権大会で優勝。猛牛と対決し、四七頭の牛を倒し、うち四頭は一撃で即死させたとの有名なエピソードがある。一九六四年国際空手道連盟 極真会館設立。一九七五年に第一回全世界空手道選手権大会を開催して、全世界に極真空手ブームを巻き起こす。世界一二〇カ国に公認道場を持ち、一二〇〇万人の門弟の総裁として、その生涯を極真空手に捧げた。享年七〇歳。  
(国際空手道連盟 極真会館HPより引用)



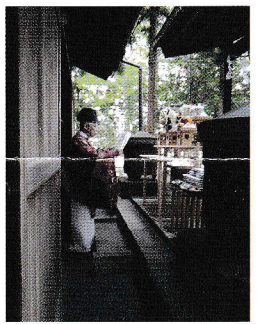
奉納の社名碑と旗を持つ管長



大山倍達氏奉納旗



月次祭で挨拶をされる管長



祝詞を奏上される管長

## 教内異動

### 教師昇級

○補 権少教正

栄珠稻荷神社(属)

東京・永井栄子

(令和三年八月二十八日付)

○補 権大講義

直属

福島・永山和洋

(令和三年八月二十八日付)

○補 訓導

良和神社(属)

東京・宮内康

(令和三年八月二十八日付)

○補 少講義

眞中神社(属)

岐阜・林日奈子

(令和三年八月二十八日付)

### 辞職者

○三重・照国講社(属)

訓導・林 秀雄

(令和三年九月一日付)





## 管長の動向 (対外行事・事務局)

|    |           |                                    |
|----|-----------|------------------------------------|
| 七月 | 二十八日      | 神道大教院総代会・次世代委員会開催                  |
|    | 二十九日      | 神道大教院会議開催                          |
| 八月 | 一日        | 月首祭                                |
|    | 二日～六日     | 南箕町会夏休み子供ラジオ体操開催 (神道大教院境内)         |
|    | 十三日       | 四本木稲荷神社月次祭斎行 (管長・大熊部長奉仕)           |
|    | 十五日       | 中旬祭                                |
|    | 二十一日      | 月次祭                                |
|    | 二十五日～二十八日 | 神道学院夏季研修会開催                        |
| 九月 | 一日        | 月首祭                                |
|    | 十日        | 教派神道連合会理事会出席 (リモート会議)              |
|    | 十三日       | 四本木稲荷神社月次祭斎行 (管長・大熊部長奉仕)           |
|    |           | 作曲家 笠間千保子師来局                       |
|    | 十五日       | 中旬祭                                |
|    | 十九日       | 伊豆市「修善寺あさば」邸内社大祭斎行 (管長・大熊部長奉仕)     |
|    | 二十一日      | 月次祭・秋分霊祭斎行                         |
|    | 二十九日      | 管長教場訪問 東京都栄珠稲荷神社<br>(管長・総監・大熊部長訪問) |
| 十月 | 一日        | 月首祭                                |
|    | 三日        | 「(株)丸昌」豊洲市場大祭斎行 (管長・大熊部長奉仕)        |
|    | 十一日       | 教派神道連合会理事会出席 (神道大教)                |
|    | 十三日       | 四本木稲荷神社秋季大祭斎行 (管長・総監・大熊部長奉仕)       |
|    | 十五日       | 中旬祭                                |
|    | 十八日       | 有栖川宮・高松宮展墓 (管長・大熊部長)               |
|    | 二十一日      | 秋季大祭斎行                             |

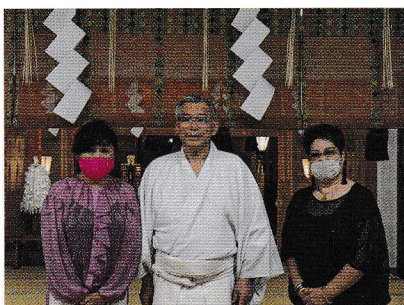


### 作曲家笠間千保子師来局

笠間千保子さんの音楽事務所の後援会長毛馬内(けまない)さんが、札幌八幡宮の近所に居住されていて、笠間さんとお二人で、何度か札幌八幡宮に御参拝されていました。笠間さんは最近、伊勢の神宮に御自身が作曲された曲に作詞家の詩を付けて奉納されたそうです。神宮の関係者からは大変喜ばれたようです。

笠間さんは、八幡宮にも曲を奉納したいと毛馬内さんに相談をされ、毛馬内さんよりお電話を戴きました。

東京在住の笠間さんと本局でお会いする事になりました。当日は女性の御友人とお二人でお見えになり、とても気さくで明るいお方なので、話がはずみ、十年來の交際を重ねているような雰囲気となりました。そうした中、神道大教の愛唱歌のような曲を作って、教師同士のつながりを深めてい



左側 笠間千保子氏と伴に

けるような曲が欲しい。と私の思いをお話ししましたら、笠間さんから、「八幡宮の曲と神道大教の曲とどちらを望みますか」と尋ねられ、私は神道大教の曲が欲しいですと答えました。

笠間さんは快くお引き受け下さり、年内には曲を作り奉納させてもらいますとのこと言葉を戴きました。私はとても嬉しくなりました。

笠間千保子さんは音楽大学を卒業され、長くピアノとして御活躍され、十年前より作曲家として活動されています。多くの歌手の作曲を手掛けられ『藤田まさ』と賞『優秀作曲賞』も授与されています。



# 菊池管長の教場訪問

## 「神道大教 栄珠稲荷神社」

栄珠稲荷神社は、東京都世田谷区三宿一―十四―二十三に鎮座します。栄珠稲荷神社は別名「団子神社」と呼ばれています。昔、日照り続きで作物が育たないほど困窮していたので、そのために赤土で団子を作り、それを、栄珠稲荷神社に奉納し、降雨を祈願しました。すると村人の必死の祈りが通じ雨が降ったと言います。無事に作物を育てられた村



鳥居と境内地



御 神 前

人は米で団子を作り、改めて栄珠稲荷神社に奉納しました。このエピソードから栄珠稲荷神社では、祈願時に土の団子、感謝時に米の団子供えるようになり、「団子稲荷」と呼ばれるようになりました。栄珠稲荷神社の初代宮司が森田栄常師で、昭和三年二月に御逝去されました。大山阿夫利神社社掌、増田耕三師の二男森田作次師が森田家に入婿され二代目宮司を継がれました。森田作次師は、神道大教第七代管長を務められました。森田管長の就任は終戦直後の昭和二十年十月で、この新管長の門出を祝うものは、



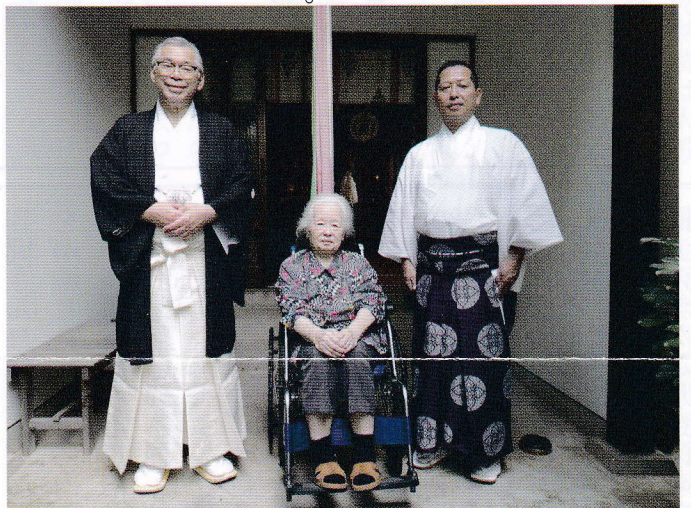
クスノキの御神木

晴朗なる海路ではありませんでした。しかし管長は焼野原の本局境内の中から、現在の神道大教を見事に復活されました。その御功績は筆舌に尽くせぬものがあります。昭和三十九年五月に御逝去されました。森田家のお嫁さん、森田和子先生が第三代宮司を継がれました。森田和子先生は、神道大教大会議員、責任役員、神道大教総代を何期も務められ、現在も顧問として本局の為に御尽力下さっています。又、東京婦人会会長として永年御奉



談笑される森田和子宮司

仕下さっています。御息女の永井栄子先生、お嫁さんの森田瑞穂先生が東京婦人会員として本局に御奉仕を続けられています。



左から、菊池管長・森田和子宮司・長元総監



乃木希典將軍の夫人、静子さんが無事帰還を願った猿田彦神社と御神名碑（境内地）